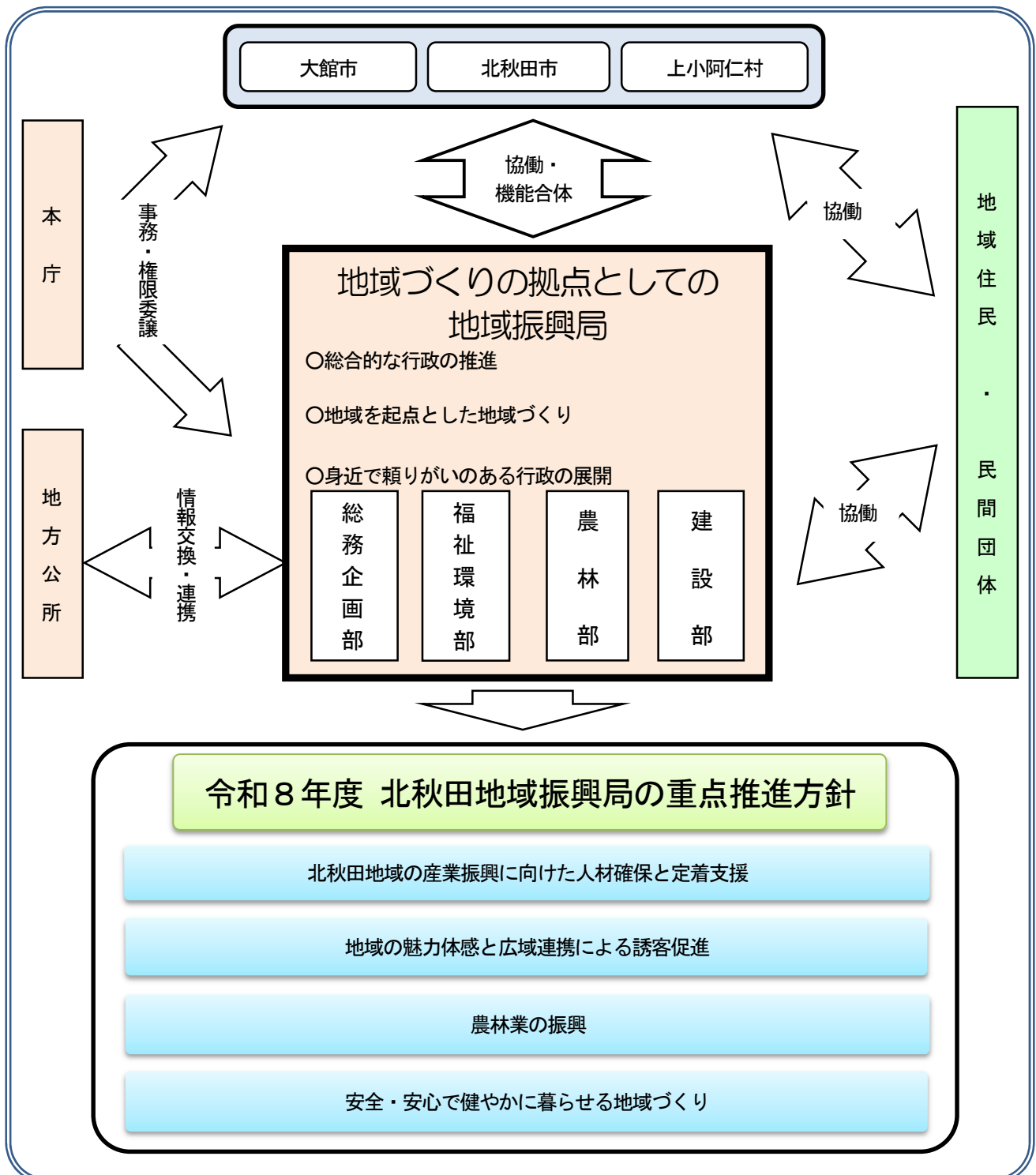


I はじめに

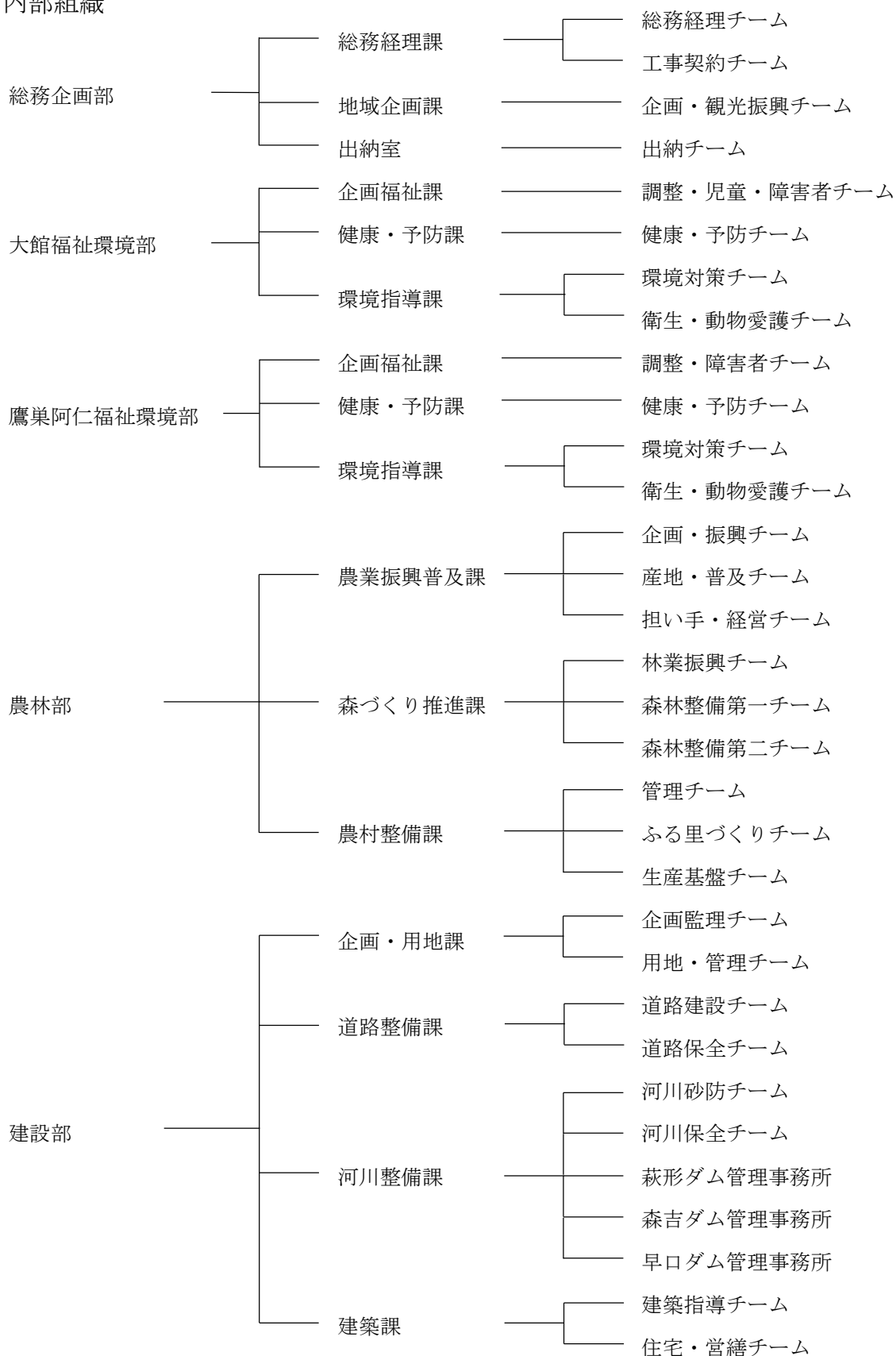
北秋田地域振興局では、「秋田県総合計画」の着実な展開を図るため、重点施策推進方針を策定し、これに基づく施策・事業を推進することにより、一層活力ある魅力的な地域づくりを進めている。

振興局の組織は、総務企画部、福祉環境部、農林部及び建設部からなり、職員総数は会計年度任用職員を含め、230人（R8.4.1現在）となっている。また、地域における総合的な行政を推進する観点から、地域振興局に属していない地方公所等とも密接な情報交換等により連携を図っている。



Ⅱ 組織体制

1 内部組織



2 管内地方公所等

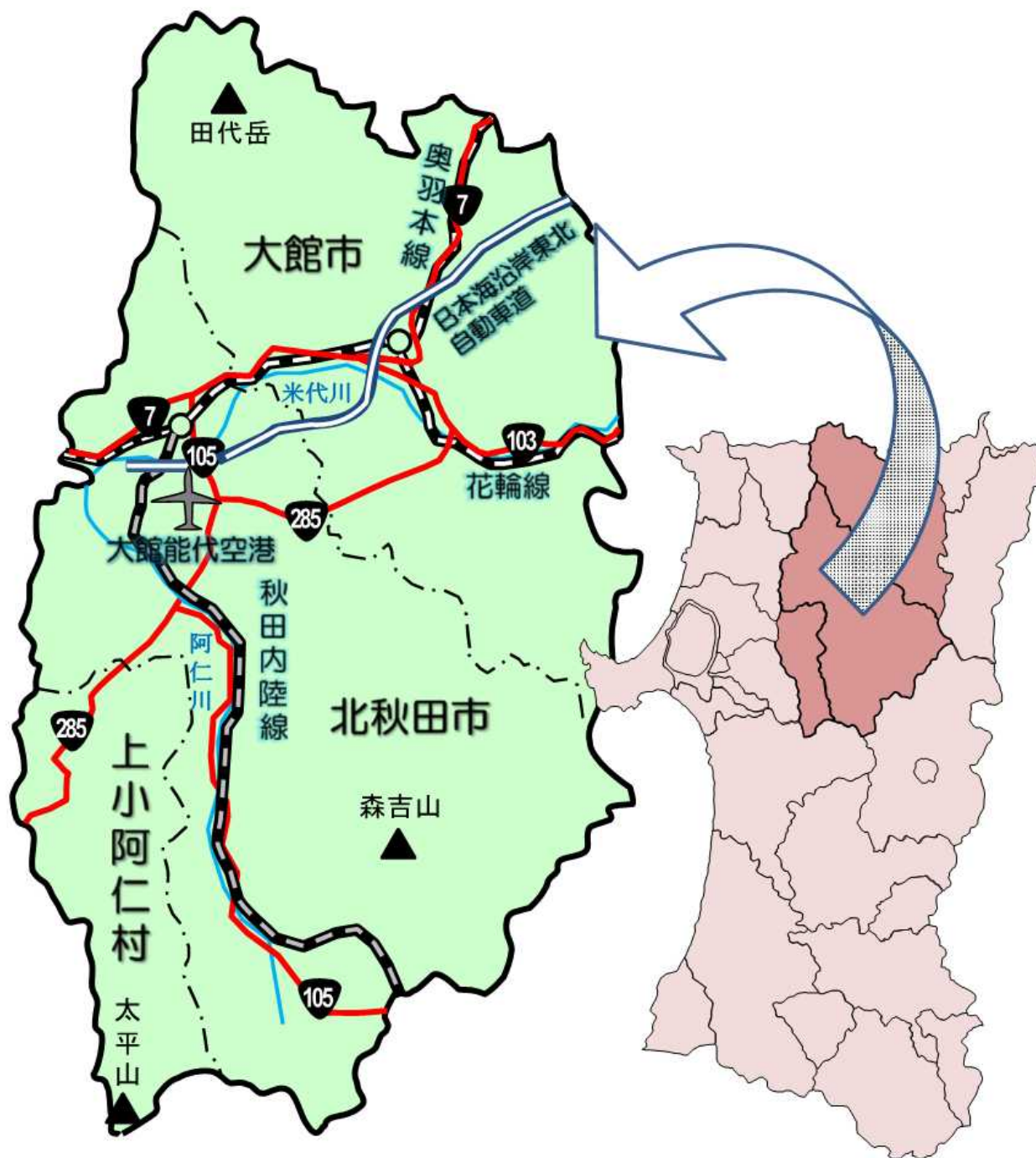
- 総合県税事務所北秋田支所
- 交通政策課秋田内陸線支援チーム（※現地設置チーム）
- 北児童相談所
- 動物愛護センター県北支所
- 北部家畜保健衛生所
- 鷹巣技術専門校
- 大館発電事務所
- 大館能代空港管理事務所
- 北教育事務所

Ⅲ 職員数

(R8.4.1 現在)

	定 数 内 職 員			定 数 外 職 員				
	正 職 員	専 門 員 技 能 員 (フル)	小 計	専 門 員 技 能 員 (短時間)	非 常 勤 (会計)	非 常 勤 (特別職)	小 計	合 計
地 域 振 興 局 長	1		1					1
総 務 企 画 部	26	0	26	1	8	0	9	35
大 館 福 祉 環 境 部	25	2	27	0	15	2	17	44
鷹 巣 阿 仁 福 祉 環 境 部	12	0	12	0	4	0	4	16
農 林 部	47	3	50	0	5	0	5	55
建 設 部	62	3	65	0	15	0	15	80
合 計	173	8	181	1	47	2	50	231

IV 管内略図



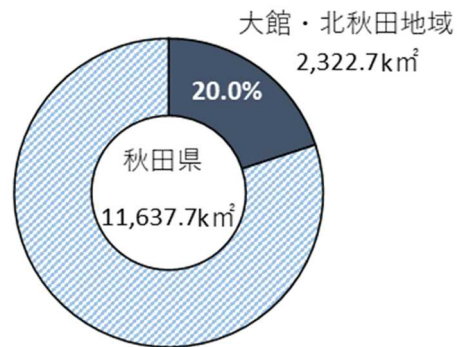
V 管内概況

1 地勢

大館・北秋田地域は、県の内陸北部に位置する2市1村（大館市、北秋田市、上小阿仁村）からなり、総面積は2,322.7km²と県全土の約20.0%を占めている。

地形は、中央部を東西に貫流する米代川（管内85.4km）とその支流沿いに平地がひらけ、大館・鷹巣盆地と阿仁部に大別される。地域全体としては山地が多く、北部には白神山地に続く田代岳、中央には森吉山、南部には太平山の3つの県立自然公園を有している。

面 積



（出典 令和8年版秋田県勢要覧）

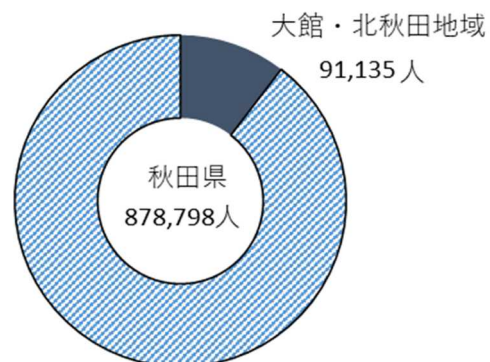
2 人口

管内の人口は、昭和35年の176,653人（国勢調査）をピークに減少を続け、令和7年10月1日現在で91,135人（県全体の10.4%）となっている。

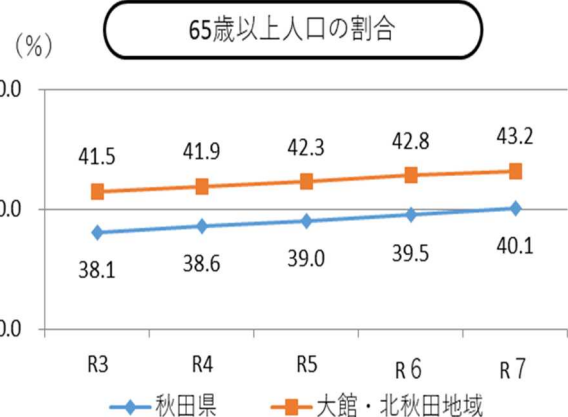
また、管内の65歳以上人口の割合は43.2%で、県平均の40.1%を3.1ポイント上回っており、県の中でも高齢化が進行している。

国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（令和5年12月発表）では、管内の人口はこのまま減少を続け、令和32年には54,390人にまで減少するとされている。また、この間、年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳から64歳）の割合は減少する一方、老年人口（65歳以上）の割合は増加し、令和32年には管内の人口の約52.0%を占める見込みとなっている。

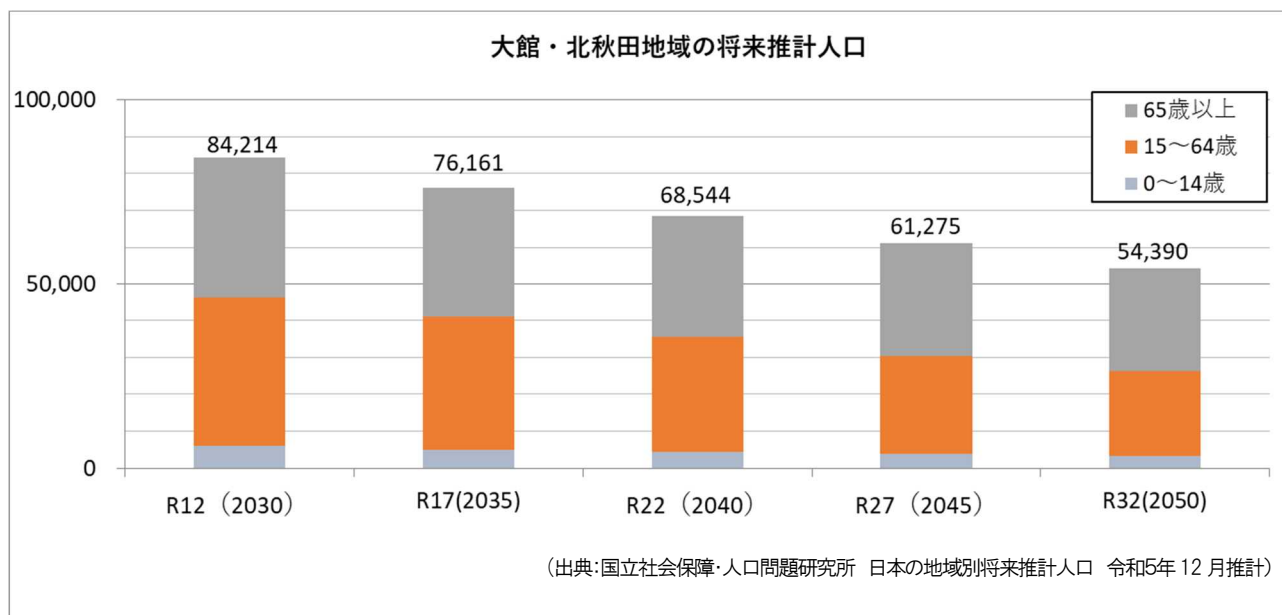
人 口



（出典 令和7年 秋田県の人口
－秋田県年齢別人口流動調査報告書－）



（出典 令和3年～令和7年秋田県の人口）

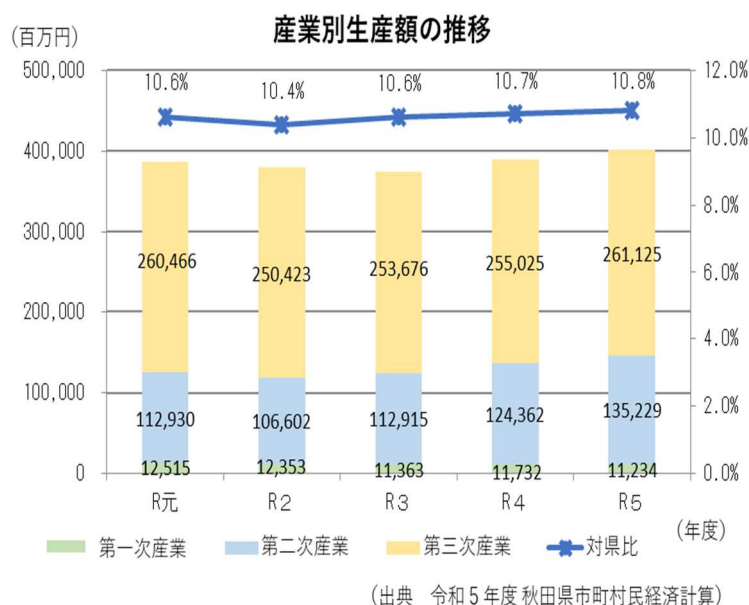


3 産業

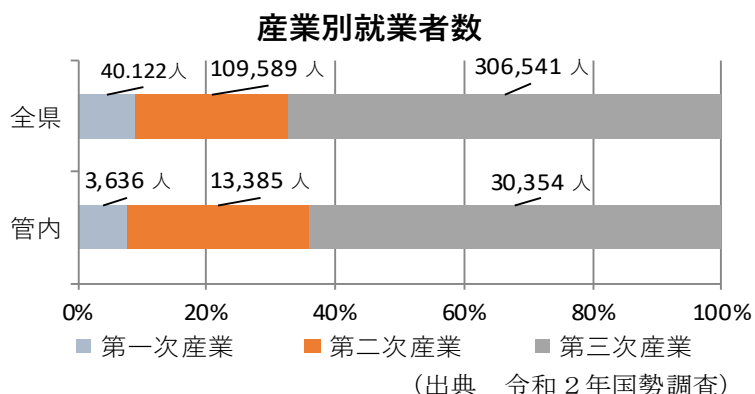
令和5年度における管内の総生産額は約4,046億円で、前年度と比べ約154億円の増加となっており、全県の総生産額（3兆7,396億円）の約10.8%を占めている。

産業別では、第一次産業が約112億円（構成比2.8%）、第二次産業が約1,352億円（同33.2%）、第三次産業が約2,611億円（同64.0%）となっており、全県と比べ、第二次産業の比率が高く、第三次産業の比率が低い産業構造となっている。

産業別就業者数の割合は、第一次産業7.7%（全県8.8%）、第二次産業28.2%（同24.0%）、第三次産業64.1%（同67.2%）と、全県と比べ、やや第二次産業の割合が高くなっている。



※第一次～第三次産業の値は、輸入品に課される税・関税等の控除前もの。
そのため、これらの計は管内の総生産額と一致しない。



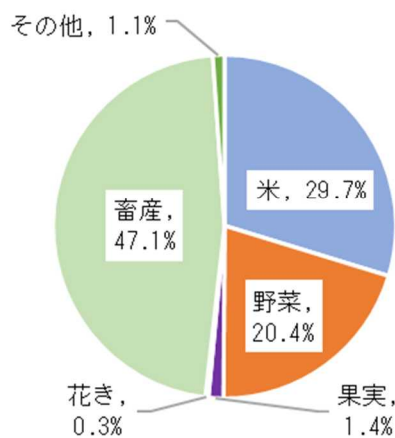
(1) 農林業

農業については、アスパラガス、キュウリ、ねぎなどの産地であるほか、近年は、えだまめやにんじくの生産が拡大している。また、比内地鶏やとんぶり等の特産品の産地である。

管内の耕地面積は田が 12,034ha、畑が 2,058ha、総農家戸数は 2,481 戸で、うち販売農家数は 1,512 戸 (60.9%)、自給的農家数は 969 戸 (39.1%) となっている。

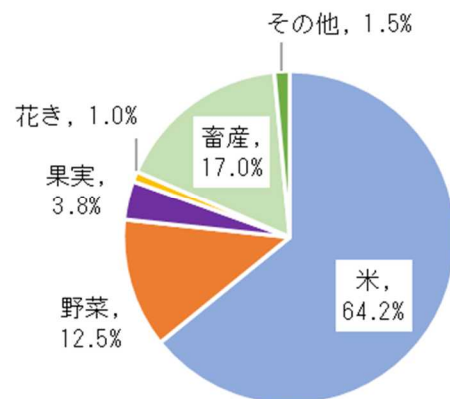
また、令和 5 年の管内の農業産出額は 222.9 億円で全県の約 13% を占めており、中でも養豚団地の整備に伴う畜産の産出額の割合が高くなっている。

令和 5 年 北秋田管内の農業産出額割合 (%)



(出典：令和 5 年市町村別農業産出額)

令和 6 年 秋田県の農業産出額割合 (%)



(出典：令和 6 年都道府県別農業産出額)

○令和 5 年農業産出額

単位：億円

	米	野菜	果実	花き	畜産	その他	合計
大館市	34.1	29.2	2.5	0.5	68.9	1.3	136.5
北秋田市	29.0	15.5	0.6	0.1	36.0	1.1	82.3
上小阿仁村	3.1	0.8	0	0	0.1	0.1	4.1
北秋田地域計	66.2	45.5	3.1	0.6	105.0	2.5	222.9
秋田県	938	298	81	12	402	40	1,771
北秋田／秋田県	7.1%	15.3%	3.8%	5.0%	26.1%	6.3%	12.6%

(出典：令和 5 年市町村別農業産出額)

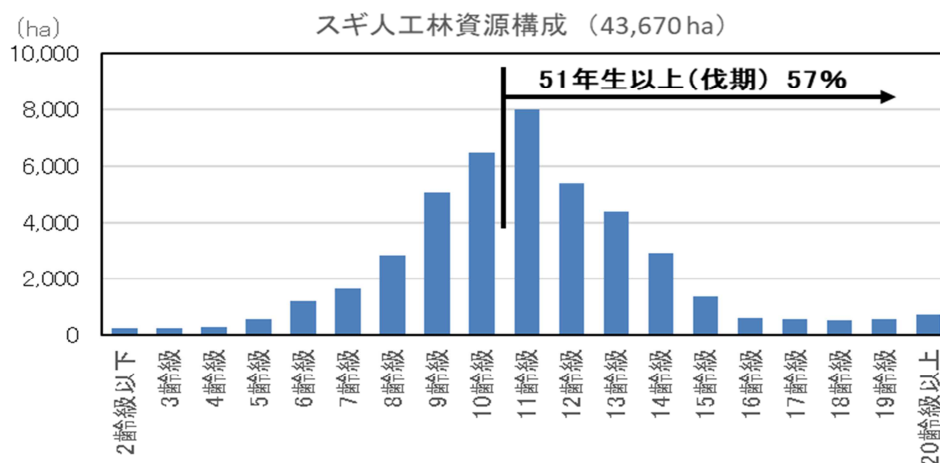
管内の新規就農者は近年 30 人前後で推移しているが、農家数の減少幅を補うには至っていない。特に新規学卒者やフロンティア研修生の少なさを踏まえ、今年度は、昨年実施した高校生アンケート（管内 3 校・700 人）や中高教員の意見をもとに、農業が職業の選択肢となるよう「意識醸成」に注力する。具体的には、出前講座や SNS 等を活用した「見る・知る」による周知啓発に加え、先進農家の「理念・やりがい」に触れる取組を通じ、次代の担い手確保を推進する。

農業の主要指標

項 目		項目	管内(A)	全県(B)	A/B (%)	摘 要
農 家 数 等	総農家数	戸	2,481	28,359	8.7	2025 年農林業センサス
	販売農家数	戸	1,512	20,659	7.3	
	自給的農家数	戸	969	7,700	12.6	
	基幹的農業従事者数 〈個人経営体〉	人	1,687	24,153	7.0	
	農業に従事した役員・ 構成員(経営主を含む) 〈団体経営体〉	人	508	7,297	7.0	
	認定農業者	戸	467	7,512	6.2	県調査 (R8.3 月末現在)
	集落営農組織	組織	80	667	12.0	
	集落型農業法人	組織	34	409	8.3	
	任意組織	組織	46	258	17.8	
耕 地	耕地面積	ha	14,085	145,200	9.7	作物統計調査 (令和 7 年)
	田	ha	12,034	127,400	9.4	
	畑	ha	2,058	17,800	11.6	

林業・木材産業については、スギ人工林の過半が伐期を迎える中で、路網整備と高性能林業機械の導入促進により、原木の生産体制が強化されているほか、伐採跡地への再造林が拡大し、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用が進展している。管内の森林面積は194,582ha で、総面積232,270ha の83.8%を占め、そのうち国有林が117,824ha(60.6%)、民有林が76,757ha(39.4%) となっている。

また、管内の林業従事者数は、原木生産の活性化や再造林の拡大に伴って安定した雇用環境にあり、近年、170 人前後で推移している。



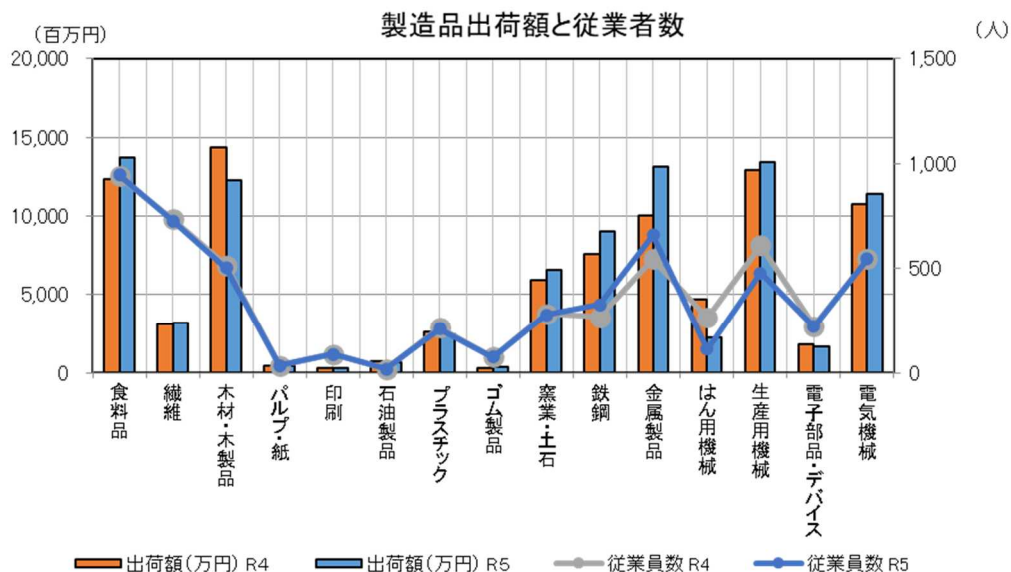
(出典：令和 5 年度版秋田県林業統計)

○林業の主要指標

項	目	項目	管内(A)	全県(B)	A/B(%)	摘 要
林業従事者	林業経営体数	社	18	174	10.3	令和6年度版 秋田県林業統計
	林業従事者数	人	177	1,417	12.5	
	林家数	戸	4,258	22,125	19.2	
森林生産	林内道路密度	m/ha	17.2	17.7	—	県調査 (R7.3月末現在)
	高性能林業機械保有数	台	181	890	20.3	
	原木市場売上量	千m ³	44	99	44.4	
	再造林面積	ha	142	735	19.3	
森林資源	林野率	%	83.8	72.1	—	
	森林面積	千ha	195	839	23.2	
	民	森林面積	千ha	77	448	17.1
	有	人工林率	%	59.8	57.2	—
	林	森林蓄積	千m ³	16,268	98,979	16.4

(2) 工業

管内の製造品出荷額等は、令和5年にあつては2,015億円、従業者数は8,957人、事業所数は241となっており、製造品出荷額をみると食料品が最も多く、生産用機械、金属製品がそれに続いている。

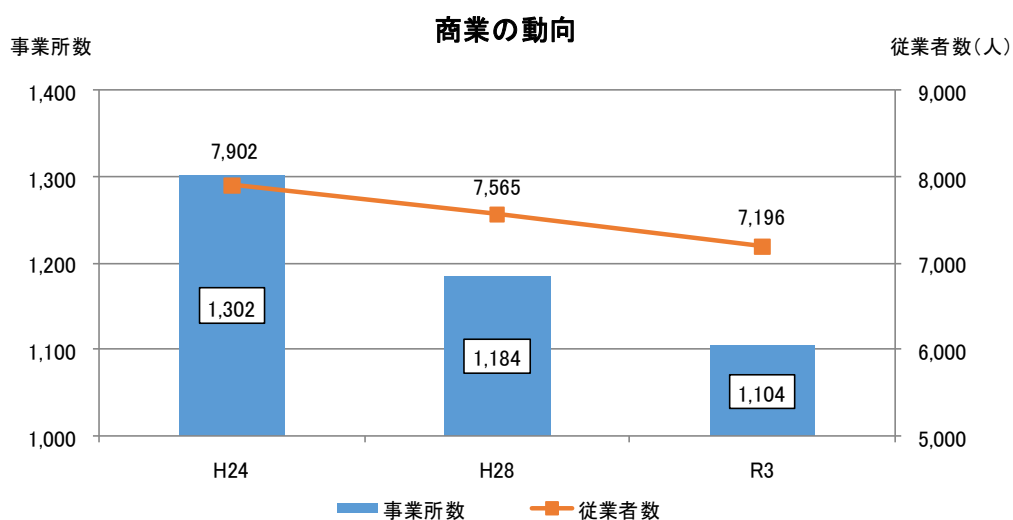


○北秋田地域の誘致企業

年度	企 業 名	市 村	操業年月	業 種
R 元	第一日昭工業株式会社	大館市	R 2 年 6 月	生産用機械器具製造業
	株式会社エレックス極東 鷹巣 再生可能エネルギー研修センター	北秋田市	R 元年 7 月	エンジニアリング業
R 3	株式会社オオダテソーイングファ クトリー	大館市	R 3 年 11 月	製造業
	東洋紡株式会社	大館市	R 6 年 6 月	製造業
R 5	株式会社本家あべや	大館市	R 6 年 6 月	製造業
	株式会社ピーぷる	北秋田市	R 6 年 4 月	情報処理 (ソフトウェア業)
R 6	株式会社ヤマハミュージッククラ フト秋田	北秋田市	R 7 年 10 月	製造業
R 7	GAOGAO株式会社	北秋田市	R 8 年 4 月	情報サービス業

(3) 商業

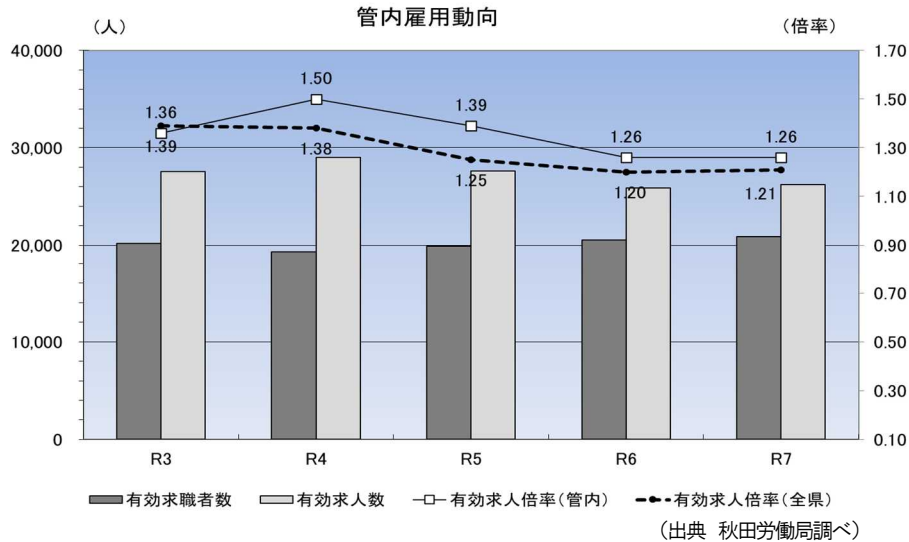
管内の卸売業・小売業は、令和3年6月実施の経済センサス活動調査で、管内1,104事業所、従業者は7,196人となっている。近年、人口減少等により、事業所数、従業者数ともに減少傾向にある。



(出典 平成24、28年、令和3年経済センサス活動調査)

4 雇用動向

管内の年間平均有効求人倍率は、令和7年にあっては1.26倍で、全県の1.21倍を上回るなど、ここ数年、全県平均以上の値で推移している。



5 観光

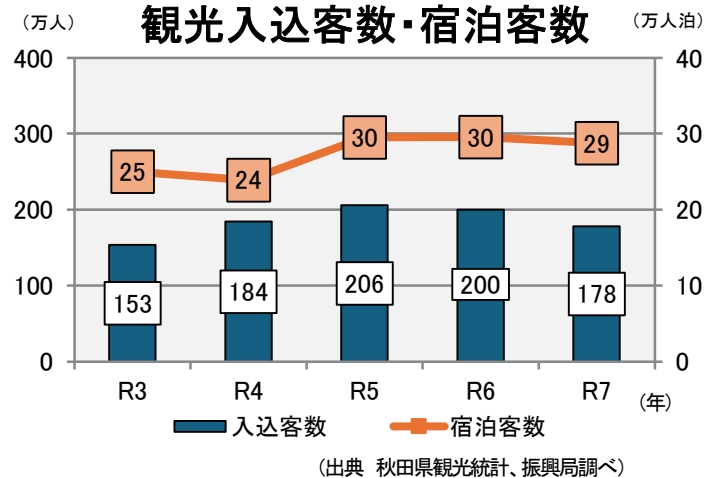
管内の入込客数は、令和7年にあっては1,778,179人で、前年比で11.0%の減少となった。宿泊客数は287,567人で、前年比で2.7%の減少となった。

令和7年は、大規模施設等の入込客数の減少や大雨災害・豪雪といった天候不順の影響などにより、入込客数及び宿泊者数ともに前年に比べて減少した。また、コロナ禍前（令和元年）の水準にも至っていない。

○主要観光地点及びイベント等の入込客数

名 称	令和6年	令和7年
秋田犬の里	219	209
道の駅ひない	107	105
大太鼓の里 ぶっさん館	170	116
森吉山阿仁スキー場	37	44

観光入込客数・宿泊客数



(千人)

名 称	令和6年	令和7年
道の駅かみこあに	297	264
大館アメッコ市	83	69
本場大館きりたんぼまつり	73	82
比内とりの市	16	18

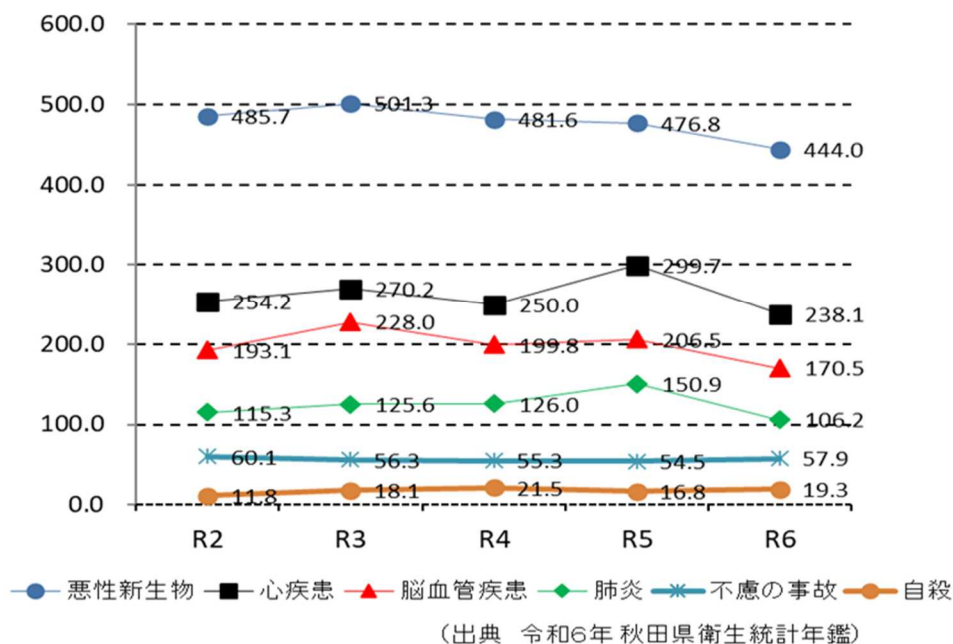
(出典 振興局調べ)

6 保健・医療・福祉

(1) 主要死因別死亡率

令和6年における管内の死亡率（人口千対）は22.2で、全県の19.6に比べ2.6高くなっている。主要死因による死亡率（人口10万対）は、悪性新生物444.0、心疾患238.1、脳血管疾患170.5の順になっている。

主要死因別死亡率の推移（人口10万対）



(2) 福祉対象者数の状況

令和7年3月31日現在の管内の介護認定者数は8,537人となっている。また、令和8年3月中の生活保護状況は921世帯、1,073人で前年同月より減少している。

（令和7年3月31日現在、単位：人、世帯）

	大館市	北秋田市	上小阿仁村	合 計
介護保険要介護（要支援）認定者数	5,665	2,676	196	8,537
精神障害者数	2,410	1,034	63	3,507
身体障害者数	3,334	1,463	128	4,925
知的障害児者数	690	409	29	1,128
母子世帯数（※1）	682	214	7	903
母子世帯の子どもの数（※1）	981	309	16	1,306
父子世帯数（※1）	95	35	4	134
父子世帯の子どもの数（※1）	142	48	8	198
生活保護世帯数（※2）	626	277	18	921
被保護人員（※2）	732	323	18	1,073

※1 令和7年8月1日現在 ※2 令和8年3月中に保護を受けた世帯数及び人員

(3) 保健福祉施設の状況

令和7年4月1日現在の管内の保健福祉施設数は、養護老人ホーム2施設、特別養護老人ホーム14施設、介護老人保健施設4施設となっている。

(令和7年4月1日現在)

	大館市	北秋田市	上小阿仁村	合 計
養護老人ホーム	1	1	0	2
特別養護老人ホーム	8	5	1	14
介護老人保健施設	2	2	0	4

(4) 医療施設の状況等

令和7年4月1日現在の管内の医療施設数は、病院8施設、一般診療所79施設、歯科診療所32施設となっている。

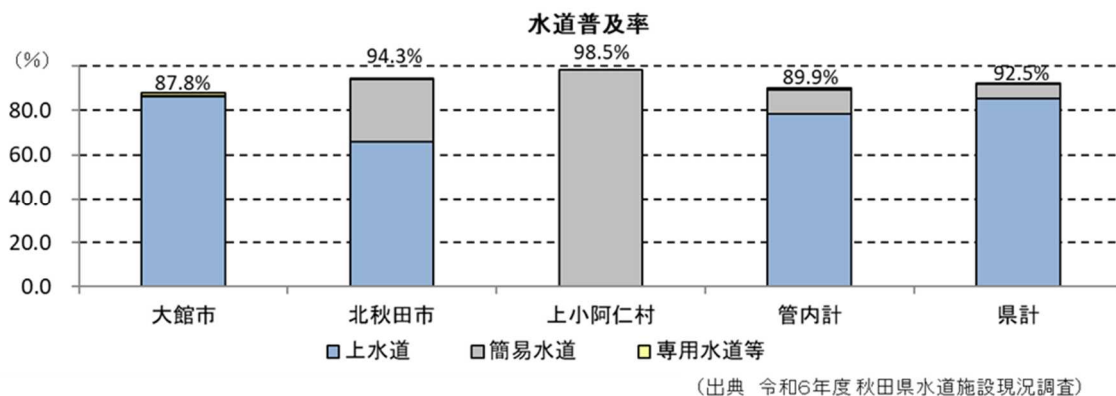
(令和7年4月1日現在)

	病院		一般診療所 (※)		歯科診療所
	施設数	病床数	施設数	病床数	
大館市	6	1,039	47	0	22
北秋田市	2	464	29	4	10
上小阿仁村	0	0	3	0	0
管内合計	8	1,503	79	4	32

7 生活環境

(1) 水道普及率

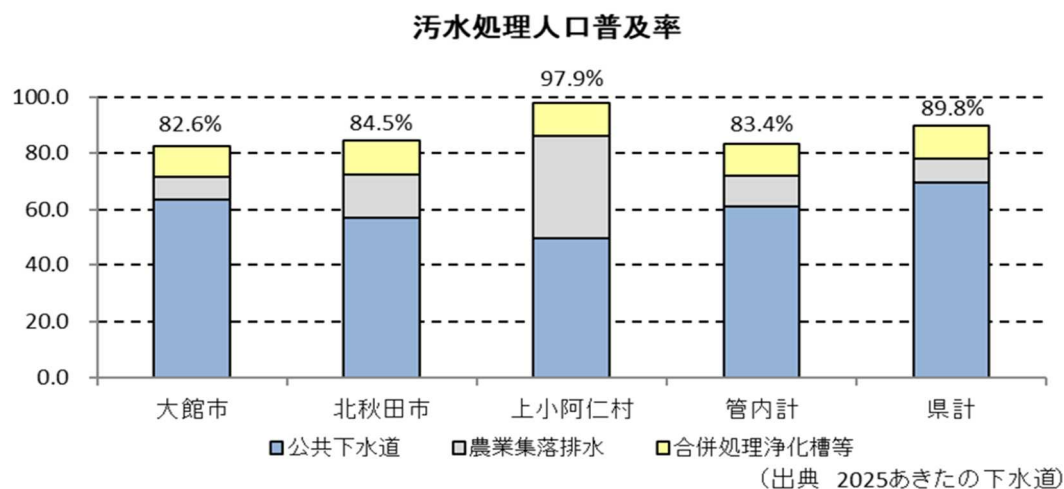
令和7年3月31日現在の管内の水道普及率は89.9%で、全県の92.5%を2.6ポイント下回っている。



(2) 汚水処理人口普及率

管内では、旧大館市、旧比内町、旧田代町が流域関連公共下水道事業、旧阿仁町、上小阿仁村が特定環境保全公共下水道事業、旧鷹巣町、旧森吉町、旧合川町が単独公共下水道事業として昭和62年度～平成10年度までに事業着手している。現在は、平成17年度の旧合川町を最後に全ての旧市町村が汚水処理を開始している。

管内の汚水処理人口普及率は、令和7年3月31日現在で83.4%と全県の89.6%を6.2ポイント下回っており、一層の整備の促進が求められている。また、流域下水道としては、米代川流域下水道事業大館処理区が昭和61年度から事業着手し、平成4年度に処理を開始しており、幹線管渠延長の整備率は100%（2条管※含む整備率87.0%）となっている。



※2条管：下水道管渠は、自然流下区間と圧送区間に分類されるが、圧送区間の管渠が損傷等で機能停止した場合に備える予備管渠を2条管という。

8 社会基盤・交通

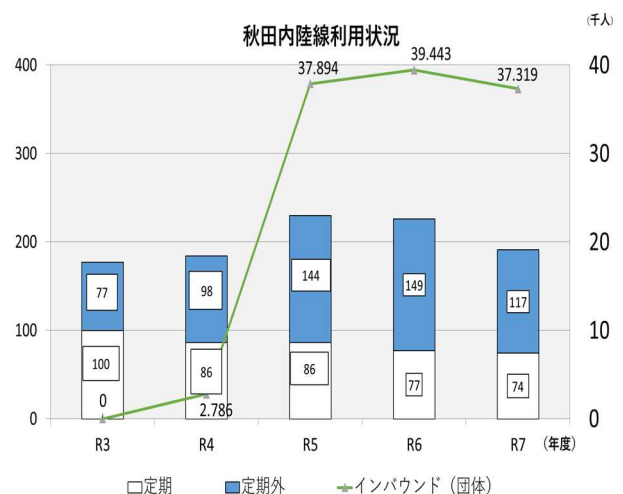
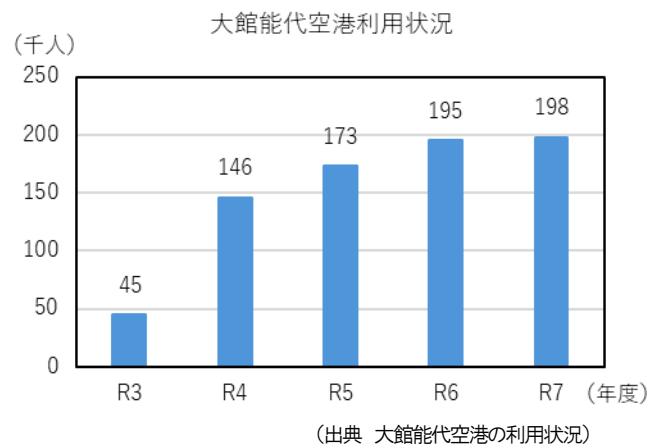
管内の交通状況について、高速道路網では、日本海沿岸東北自動車道・二井田真中 I C～鷹巣 I C 間（平成 28 年 10 月開通）、鷹巣 I C～大館能代空港 I C 間（平成 30 年 3 月開通）及び大館能代空港 I C～蟹沢 I C 間（令和 2 年 12 月開通）に続き、令和 8 年 3 月にはきみまち阪 I C～北秋田今泉 I C 間が開通した。一般道では、国管理の国道 7 号のほか、県管理の国道 103 号、国道 105 号、国道 285 号が各方面を結び、県道 27 路線が国道を補完してネットワークを形成しているが、未整備の区間もあるため、早期の整備が期待されている。

空路では、大館能代空港が平成 10 年に開港し、令和 2 年 12 月には利用者が 300 万人を突破した。同年、大館能代空港東京羽田線が、羽田発着枠政策コンテストで選定され、令和 4 年 7 月から 3 往復での定期運行となった。

また、令和 6 年 12 月の有識者懇談会において、大館能代空港の利用者数の伸びとこれまでの取組が評価され、政策コンテスト枠の延長として、令和 11 年 3 月 24 日までの 3 往復運航が決定している。

令和 7 年度の定期便利用者数は、198,483 人となっており、前年度比で 2.0%の増加となった。開港以来最多利用者数を 3 年続けて更新している。

鉄道は、J R 奥羽本線、花輪線のほか、鷹巣と角館を結ぶ秋田内陸線が第三セクターで運行されている。秋田内陸線の令和 7 年度の輸送人員は、191,129 人であり、前年度との比較では、35,561 人の減少となっている。インバウンド団体の利用は、観光需要の回復を受け、増加傾向となっていたが、頻発する自然災害による運休長期化の影響により、令和 7 年度は減少している。

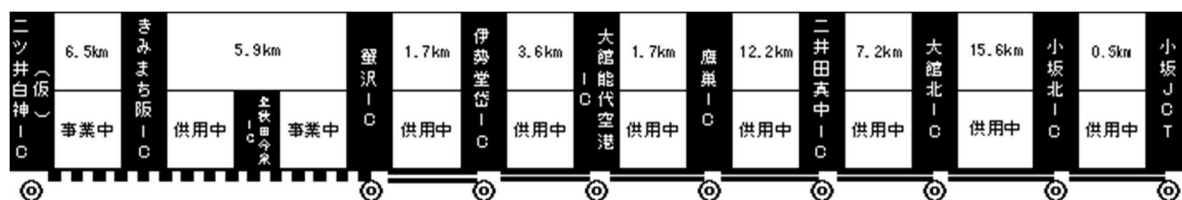


(1) 道路

管内の高速道路は、平成 28 年 10 月に日本海沿岸東北自動車道・二井田真中 I C～鷹巣 I C 間が開通したことにより、平成 25 年の大館市に続き、北秋田市が東北縦貫自動車道に接続された。

平成 30 年 3 月に、鷹巣 I C～大館能代空港 I C 間 1.7km が開通したことで、大館能代空港が東北縦貫自動車道に直結している。また、令和 2 年 12 月に大館能代空港 I C～蟹沢 I C 間 5.3km が開通、令和 8 年 3 月 20 日にきみまち阪 I C～北秋田今泉 I C 間 4.5km が開通したことにより高速道路へのアクセスがさらに向上した。

現在、二ツ井今泉道路（L=5.9km）及び二ツ井白神 I C～小繋 I C 間（L=6.5km）については、国施行による事業が進められている。



一般国道では、国直轄管理の国道 7 号が管内北部を東西から青森県境に北上し、県管理の国道 103 号が大館市から東西に鹿角地域と、国道 105 号が中央部を南北に大曲仙北地域と、国道 285 号が秋田市周辺地域と結ばれており、地域間交流・連携を支えるネットワークを形成している。

また、主要地方道では鷹巣川井堂川線など 9 路線、一般県道 18 路線で地域内交通のネットワークを形成している。

このうち、国道 105 号の郡境部の大覚野峠区間 5.7km については、令和 3 年 3 月より国直轄権限代行「大覚野峠防災」事業が進められている。

県管理道路の総延長は 30 路線、435.83km でその改良率は 77.6%、舗装率は 95.2% となっており、県全体の改良率 79.7%、舗装率 97.3% に比べてどちらも北秋田管内が低くなっている。これらの路線は地域の発展や活性化に不可欠な路線であり、厳しい財政状況が続く中でコスト縮減に努めながら整備促進を図っている。

(2) 河川

管内の河川は、国直轄管理の米代川（一部県管理 8.3km）のほか、仙北市田沢湖町との境界の栲森に源を発し、北秋田市山間部を流れ能代市二ツ井町下田平地区で米代川に合流する阿仁川（管理区間延長 60.7km）や阿仁川に流入する小又川、小阿仁川など 41 河川、管理延長 457.924km となっている。このうち、築堤済区間が 175.359km、無堤区間が 141.059km、築堤不要区間が 141.506km で整備率は 55.4% となっている。